

2026 年 6 月 4 日

学校法人三幸学園
札幌こども専門学校
校長 山根 治彦 殿

学校関係者評価委員会
委員長 高橋 奈妙

学校関係者評価委員会実施報告

2025 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 高橋 奈妙 （飛鳥未来高等学校札幌キャンパス 教頭）
- ② 川原 祥吾 （株式会社共立メンテナンス 寮事業本部札幌支店）
- ③ 鈴木 美虹 （学校法人養和学園 認定こども園まえた幼稚園教諭第 16 期生卒業生）

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2026 年 6 月 4 日（会場 札幌こども専門学校本館 303 教室）

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2025 年度 学校法人 三幸学園 札幌こども専門学校 自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 小島 健太郎

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 高橋 奈妙

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、保育分野の学校として「こどもを育み、人・社会を活性化することで日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、保育分野として「皆から信頼・感謝されるこどもの未来を育む人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

(1) 退学率低減、生徒満足度向上のための取り組み

◆退学率 6.5%以内 結果:退学者:32 名(2024 年度 42 名) 退学率:6.9%(2024 年度最終:7.9%)

学生に寄り添った対応を目標に、学年担任間での迅速な情報共有、授業見学の強化、退学するか悩んでいる学生に対して担任以外の教員が面談を実施する対応等を行ったが、結果として前年度に比べ退学率を 1.0%減少させることができた。ただし、新たな課題としては、学生に対して寄り添いすぎる対応、指導すべき場面での指導ができていないことによる、人間関係のトラブルが多く発生してしまった。

◆学校生活アンケートの向上

学校生活アンケート『あなたは本校に入学して良かったですか?』 結果:3.03 (2024 年度:3.14)

担任が担当する授業数を少なくすることで、学生と授業以外の時間でコミュニケーションが取れるよう工夫し、授業を担当する講師やカウンセラーとの連携も強化したが、結果として教員間連携と学生指導がうまく運用できず、昨年比 1.1pt 低下してしまった。もっと高い満足度を得られるよう、学生が求めていることの把握に努め、対応策を講じていく。

(2) 保育者を目指す人の増加と本校入学希望意欲向上の取り組み

2024 年度に対し、2025 年度の入学者は減少した。18 歳人口の減少も理由の一つではあるが、保育分野の希望者も減少している。そのため、オープンキャンパス等の実施だけでなく、中学生に対する職業に触れるための機会を創り、対応を行った。結果として、多くの中学生と接する機会があったが、その結果、保育者になりたいと思ってもらえたかは、すぐに結果としては見えないため、機会の創出含め、継続して実施していく必要がある。また高校生などの受験対象者に対する取り組みとして、SNS の取り組みを強化するとともに、参加者にとって魅力ある対面イベント(オープンキャンパス等)の運営に取り組んだ。今後、本校の魅力・強みをブラッシュアップし、発信していく。

② 学校関係者評価委員会コメント

●退学者傾向について

・学生時代、先生方が学校を継続することを前向きにとらえられるよう導いてくれていた印象。身近には、「保育はやりたい」と思いつつも体が弱くあきらめた友人がいた。その友人と最近会って、「あの時代に先生方に話を聞いてもらえてよかった、身が軽くなった」という話をしていた。(鈴木委員:保育科について)

・飛鳥未来高等学校札幌キャンパスを卒業して、札幌こども専門学校に入学後に相談に来ていた卒業生は西18丁目駅近辺で1名程度。高校のほうでも送り出した卒業生がどの程度続けているのか都度確認を取るようにしているが、気づいたときには辞めていることもあるので、もう少し早いタイミングでフォローすることができたのではないかと感じている。専門学校と高校とで情報交換をする機会や量を増やすことができればよいと考える。(高橋委員長:こども総合学科/保育科について)

・昨年度は、寮を途中退去した学生が多かった印象。7割くらいは、すでに決めた状態で報告されている状況。残り3割は寮長寮母さんに相談しているが、ほとんどが退学を決めている状況。早い段階で意思を確認することができれば、寮での退学以外の道を考えられるように支援することができるため、学校でそういった可能性があると思った段階で連絡をもらい、学校と寮とで支援していくのはどうか。(川原委員:こども総合学科/保育科について)

●学校生活アンケートについて

・自身はすぐに社会に出たいと思って保育科を選択したが、学年全体で「休みが少ない」「忙しい」などのギャップを感じているようだった。目標や考え方で2年制・3年制の選択をしていったほうがよいのかと思っていた。子どもが好きだけど保育の仕事は難しい場合もある。学校生活において、つまり理由として実習が挙げられる。その時に、核心をつくような話をしてくれる人が必要だと思う。友人同士だと「大丈夫」で終わってしまう。(鈴木委員:こども総合学科/保育科について)

・高校では、アンケートの取り扱いについて難しさを感じている。アンケート内容の中でも、改善点等ネガティブな設問について、注目している。高校の退学理由は、「家から出られる、出られない」「学費」「家庭環境」等福祉と教育の両方の観点が必要な状況。(高橋委員長:こども総合学科/保育科について)

・寮でもアンケートを5月頃実施している。改善点に注目して、活用している。(川原委員:こども総合学科/保育科について)

(2) 保育者を目指す人の増加と本校入学希望意欲向上の取り組み

・自身が在学していた時に感じた魅力は行事であったため、SNSなどを活用し、行事の様子を行事の本番だけでなく、行事の裏側など(委員会の様子など)もSNSに掲載してもいいのではないかと。(鈴木委員:こども総合学科/保育科について)

・人と関わる仕事に対してのいい意味でも悪い意味でも覚悟を持たせたいと感じている。その覚悟を持たせる最後のチャンスが高校だと思っている。オープンキャンパス等で専門学校へ行く生徒もいるので、仕事に就く上で大切なこと(覚悟)も伝えてほしい。(高橋委員長:こども総合学科/保育科について)

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

・出生数の減少、こども家庭庁の施策など、業界の状況が常に変化しているため、地域との連携はもちろん、情報収集は常に必要不可欠である。同時に学生・保護者への周知も実施していく。

② 今後の改善方策

・学生に対しては、入学時の説明で上記については説明を行い、周知を図っている。
 ・業界のニーズを把握する点は、年1回実施している「こども未来会議」にて業界とのつながりを強化し、知り得た情報を学生にも還元していく。また、「エリア担当教員」が実習巡回時に業界ニーズを収集することで、常に最新の業界の動きを把握し、本校姉妹校合同会議等にて検討し、カリキュラム作成にも生かしていく。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・将来の構想を考えるにあたり、AI や ICT の活用・導入は、必ず必要になってくると考える。それぞれの現在の状況はどうか。（小島副校長：こども総合学科/保育科について）

・園の ICT 化については、現在少しずつ進めていっている様子。やはり現場でもこれからより必要になってくるのではないかと考えられる。（鈴木委員：こども総合学科/保育科について）

・当社ではコロナをきっかけに DX 化が進んだ。寮生とのやり取りはほぼすべてアプリや LINE となった。（川原委員：こども総合学科/保育科について）

・高校では GIGA スクール構想もあり、ICT 化は当たり前のように進んでいる。AI の利用方法について、文科省や学園からも適切な使い方を指導していくようにということになっている。今後の懸念として、文字を書くことができないが、打つことや読むことができるという子が増えていくのではないかと感じている。（高橋委員長：こども総合学科/保育科について）

・それぞれの状況を伺い、ICT を活かした学びが必要であるということが確認できた。今後継続して ICT を活用した学びができるように考えていく。（小島副校長：こども総合学科/保育科について）

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

① 課題

・情報システム化については、infoClipper という学生管理システムと、SANKOGATE という学内ポータルサイトを使用して授業の効率化・成績評価等の効率化を図っている。また、2025年度より「実習支援システム」というシステムを取り入れ、学生が実施する実習の管理についても紙ベースのものから変更し、業務の効率化を図っている。

② 今後の改善方策

・2025年度新入生より、Google クラスルームを導入し、教員・学生共に効率化を図った。
 ・時代背景に合わせた教育の質の担保を保てるように改善や新たな取組みを実施していく。2026年度は学生との連絡手段として Google チャットを取り入れ効率化を図っていく。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

・保育分野における業界との連携において、優れた教員の確保という点において、期待以上の成果が出ていないことが課題である。今後、現場との連携含め、保育者としての現場経験を持ち、業界や現場と連携が取れる教員の確保や採用するための関係性作りが重要になる。

② 今後の改善方策

- ・保育現場での経験があり、業界に詳しい教員の採用
- ・現場との連携強化とOJT制度を駆使し、働きやすい職場を醸成

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・関係性を作っていくということでは、当社では研修で横のつながりを持つ機会を作っている。
学校と業界、学校と卒業生など、様々な角度でつながりを持つ機会ができるとよいのではないかと。（川原委員：こども総合学科/保育科について）

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格（免許）取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- ・退学率はここ数年減少しているが、学校が目標としている結果には到達していない状況。
- ・就職後について、全国で卒業生向けのアンケートを実施しているが、その内容をすぐに教育活動に反映させられていないこともあるため、改善が必要。

② 今後の改善方策

- ・対人関係の悩みが増えることの退学防止策として担任制を定着させ、学生の悩みに迅速に対応できるようにする。また教室に入りにくくなった学生が、別の教室で授業を受講できるような環境を設け、学ぶことをあきらめない環境を創っていく。
- ・卒業生と交流する機会を設け、情報を把握できるようにし、就職してからの課題感や学んでおきたかった内容などを把握するようにし、改善していきたい。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	3
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

- ・保護者との関わりについて、報告、連絡が遅れたことによるトラブルが多かったため、改善が必要な状況。
- ・求人票をデータ化し、クラウド上でいつでも見ることができるようにしているが、卒業生が活用しているかどうか把握できていない状況。
- ・退学者に対し、支援できるようにはたらきかけるが、求められていないことが多く、活用できていない状況。

② 今後の改善方策

- ・保護者との連携強化のため、トラブルがあった際はすぐに報告連絡相談し、信頼を得られるように努めていく。
- ・卒業生の活用が把握できていないため、状況を把握し、ニーズを調査する。
- ・退学者に対する支援の内容、求められるものが何かを把握する。
- ・社会人のニーズを踏まえた教育環境の整備のため、学び方の幅を増やし選択できるようにする。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・本校では卒業生の支援として、毎年ホームカミングを実施しているが、高校ではどのように対応されているか。
（竹藪主任：こども総合学科/保育科について）
- ・進路未決定の卒業生が、大学受験をするとなった場合、書類作成のために来校するので、近況を聞いている。
また卒業後に日本奨学金支援機構の奨学金を予約採用で利用したい卒業生についても、対応が必要になるので、来校してもらい、その際に状況を確認している。（高橋委員長：こども総合学科/保育科について）
- ・卒業生の立場では10月に開催された同窓会は、楽しく参加できたので、ざっくばらんに話をする機会はあつてよかったと感じている。連絡が取れない友人と会え、近況を聞いたり、担任が同じ学年だったりすると情報交換をしやすい。時期は、もう少し早くてもよいかもしれない。開催してもらえるのであれば、参加できる卒業年度を絞らず、毎年でも構わないと感じている。（鈴木委員：こども総合学科/保育科について）

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	3
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

・18歳人口減少に伴い、来校者が例年に比べ減少している。

② 今後の改善方策

・保育業界や学校の魅力を伝える機会を増やすための、体験内容や見学会の企画検討、また質の高い教育の提供を職員一人ひとりが意識を持ち、自信を持って学生募集活動ができる状態をつくる。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

なし

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

2025 年度は第3期中期経営計画(2023 年度～2027 年度)の 3 年目にあたり、東京未来大学及び小田原短期大学の中期計画改定を反映し、第3期中期経営計画＜第 2.0 版＞を策定し年度開始時より適用した。中期経営計画及びその進捗状況はホームページ上に公開している。

④学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

・自己評価による問題点に対し、改善を行っているが、目標に達していない項目もある。

② 今後の改善方策

・問題の分析と改善点の見直しを継続して行う。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

① 課題

・産学連携では、「あそびのひろば」が「札幌市」（こども未来局子育て支援課）と「札幌市教育委員会」（教育委員会生涯学習推進課）で後援許可をいただき、広く告知ができていますが、参加者が少ない日もある。

② 今後の改善方策

・各保育施設や広告期間（ラジオ・新聞社）へチラシを配布し、あそびの広場の取り組みについて広めていく。
 ・地域に対し、保育という視点で支援できることを探していき、地域貢献できるようにする。

③ 特記事項

・札幌市主催の「札幌シゴト博」の協力に関する依頼があり、参加するなど、学校として社会貢献と地域貢献活動は、今後も積極的に実施していく。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

・総じて適切な運営をしていると感じている。教育的な面で見ると課題として挙げてはいるが、退学率も年々減少しており、改善されているという様子が見受けられる。業界含め関連する「学生・保護者・企業・地域社会などの関係者との関係や連携をより強めていくことができれば、より良くなると考える。（高橋委員：こども総合学科/保育科について）